

株主通信

Vol.19

2011年3月期 2010.4.1~2011.3.31

INSIGHT & INFORMATION



株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION

証券コード 6467



ネットシェイプ事業

技術・強み

当社は、高精度、高強度が求められる自動車部品を一発のプレスで成形できる精密鍛造金型の開発、生産を行っています。

その核となる技術「ネットシェイプ」は、金属素材を削らず、熱も加えずに複雑な形に仕上げる理想の加工技術です。ネットシェイプを導入すれば、材料は切削加工の3分の1にまで削減でき、生産速度は従来の5～10倍まで高まるなど、生産効率が大幅に向上します。

当社は、金型の生産のみならず、その研究開発から設計、精密鍛造品の部品製造までをカバーするトータルエンジニアリング力で、省資源・省エネルギーなライン作りに貢献しています。

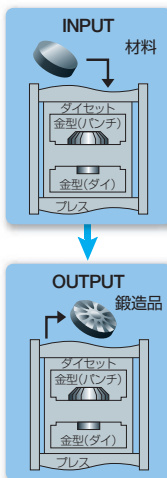
ユーザー

ネットシェイプは、複雑な形状の部品をプレス一発の短時間で作ることができるため、精巧な加工と大量生産の両立が求められるエンジン、トランスミッション、駆動関連などの自動車部品製造で活用されています。

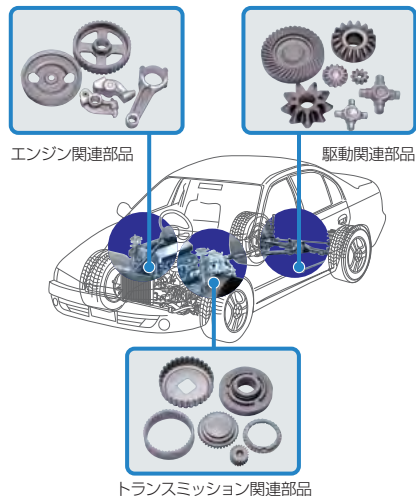
また当社金型の多くは自動車関連企業で使われておりますが、その内訳は、特定メーカーに偏ることなく、すべての国内メーカー系列と取引しているほか、海外メーカーとの取引も増加しています。

さらにカーエアコン用スクロール部品など、自社製金型で生産した自動車精密鍛造部品の生産・販売も行っています。

精密鍛造工程



ネットシェイプで成形できる主な自動車部品



ネットシェイプ事業のバリューチェーン

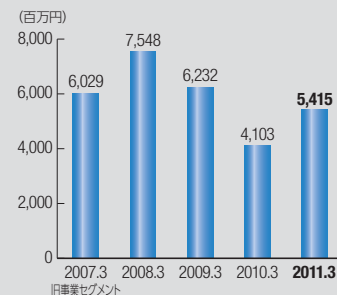


精密鍛造金型



精密鍛造品

売上高の推移





アッセンブリ事業

技術・強み

欧州の厳しい環境規制をクリアするディーゼルエンジンには、NOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)などの有害物質排出を削減し、低燃費やスムーズな加速を実現するVGターボチャージャーが組み込まれています。当社は、このターボチャージャーの性能向上のカギとなる部品に関する独自の組み立て技術を確認し、国内およびタイで生産しています。

ユーザー

当社が提供する部品は、三菱重工業株式会社でVGターボチャージャーに組み込まれ、その後、主に欧州で乗用車に搭載されます。ディーゼルエンジンの普及率が高い欧州では、強化が進む環境規制に対応するための開発競争が盛んで、当社製部品も貢献しています。

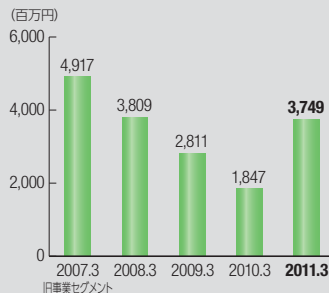


VGターボチャージャー



VGターボチャージャー部品

■売上高の推移



フィルタ事業

技術・強み

「ろ孔」サイズ・形状が異なる何枚ものステンレス金網を、独自の積層焼結技術により一体構造化したフィルタ製品の開発、生産を行っています。洗浄すれば再利用できるフィルタは、幅広い過精度に対応可能で、機械的強度、耐熱・耐寒性などにも優れた特性を発揮します。当社は、より高性能なフィルタ開発のための研究に努めています。

ユーザー

石油、ガスなどのエネルギー分野、プラスチックなどの化学分野から繊維・医薬品・食品分野など幅広い産業で採用されています。厳しい品質基準の下で高い信頼性を要求されるロケットの燃料ろ過にも使用されており、今後は半導体工場で使われるオゾンの廃棄処理など幅広い分野への用途の広がりが期待できます。

フィルタを納入している主な産業例



ヘルスケア



フィルム



石油・ガス



食品

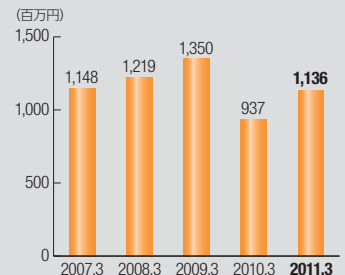


積層焼結金網フィルタ



オゾン分解フィルタ

■売上高の推移



* オゾン分解フィルタの詳細については11ページをご覧ください。



東日本大震災について

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆さまとその関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。当社グループでは、被災地の一日も早い復興をお祈りするとともに、できる限りの支援、協力を行っていく所存です。

代表取締役社長 古屋 元伸

顧客業界の設備投資が回復し、 全事業で増収増益となりました。

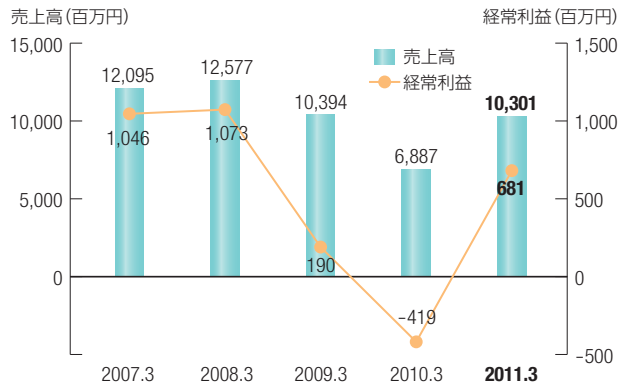
主要顧客である自動車業界の順調な回復を受けて、2011年3月期(2010年4月1日～2011年3月31日。以下、当期)の業績は、大幅な増収増益となりました。これまで取り組んできた体質強化策などの成果も着実に出ております。

今後は、新たに策定した中期経営計画(詳細については8～9ページをご覧ください)に基づく各施策に全力で取り組み、より強靱な企業体質への転換を進めます。

[見直しに関する注意事項]

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

■売上高・経常利益の推移(連結)



Q 当期の業績について教えてください。

A 業績は好調に推移し、
全事業で大幅な増収増益となりました。

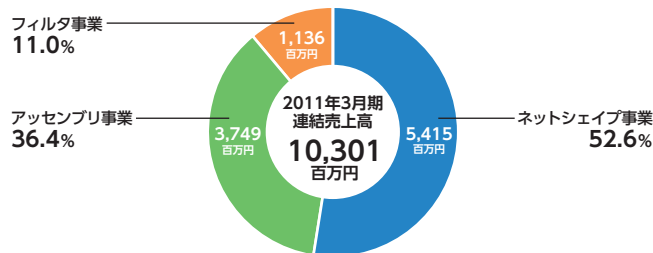
はじめに、東日本大震災において、当社グループでは人的被害や建物・設備などの物的被害はなく、当期の業績に関しても、ほぼ影響がなかったことをご報告申し上げます。

当期の業績は、連結売上高103億1百万円(前年同期比49.6%増)、連結営業利益7億3百万円(前年同期は、4億1千2百万円の営業損失)、経常利益6億8千1百万円(前年同期は、4億1千9百万円の経常損失)、当期純利益4億9千5百万円(前年同期は、4億5千万円の当期純損失)となりました。

前期は、リーマンショックによる景況悪化の影響を受けて、業績が大きく落ち込みましたが、当期は、主要顧客先である自動車業界の回復基調に的確に対応することで、大幅な増収増益を達成し、全事業において経常利益を計上しました。

ネットシェイプ事業は、売上高54億1千5百万円(前年同期比32.0%増)と、前期を大きく上回りました。金型部門では、国内自動車業界の復調に伴い、金型需要が増加しました。加えて下半期からは、国内部品メーカーによるアジア地域向けの金型需要が大幅に増加しています。一方、精密鍛造部品部門では、当期に予定していた米系部品メーカー向けの量産開始が遅れたため若干の影響を受けました。

■ 部門別売上高比率



■ 売上高 (百万円)

	2011年3月期		2010年3月期 実績
	実績	伸び率	
ネットシェイプ	5,415	32.0%	4,103
金型	4,577	29.4%	3,537
精密鍛造品	838	48.1%	566
アッセンブリ	3,749	103.0%	1,847
フィルタ	1,136	21.3%	937
連結計	10,301	49.6%	6,887

*百万円未満は切り捨て

■ 損益 (百万円)

	2011年3月期		
	売上高	経常利益	利益率
ネットシェイプ	5,415	271	5.0%
アッセンブリ	3,749	300	8.0%
フィルタ	1,136	109	9.6%
連結計	10,301	681	6.6%

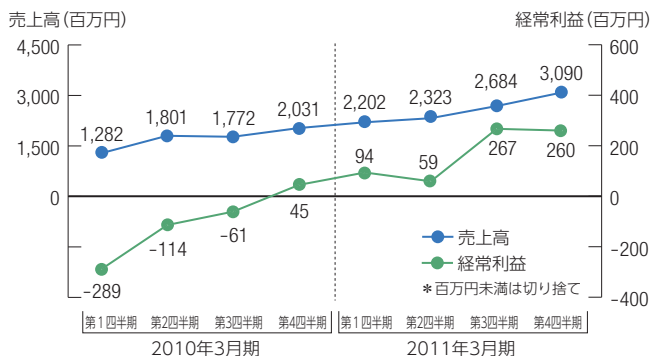
	2010年3月期		
	売上高	経常利益	利益率
ネットシェイプ	4,103	△342	△8.4%
アッセンブリ	1,847	△137	△7.5%
フィルタ	937	61	6.6%
連結計	6,887	△419	△6.1%

*百万円未満は切り捨て

アッセンブリ事業は、売上高37億4千9百万円(前年同期比103.0%増)と大幅な増加となりました。主な要因としては、欧州で環境規制に対応したディーゼル車市場が復調し、同市場向けVGターボチャージャーに組み込まれる当社製部品に対する需要が急回復したことに加えて、海外生産拠点NICHIDAI(THAILAND)LTD.での本格的な量産が順調に立ち上がったことがあげられます。

フィルタ事業は、売上高11億3千6百万円(前年同期比21.3%増)と好調に推移しました。当事業では、国内における設備投資意欲が回復してきたことに加えて、新規開拓に取り組んできた成果も出ています。また、海外拠点THAI SINTERED MESH CO., LTD.で扱う石油掘削用フィルターについても、これまで低迷が続いていましたが、需要は回復しています。

■ 四半期ごとの売上高・経常利益の推移(連結)



Q

次期の業績について教えてください。

A

現時点での予想は見送らせていただきますが、予想が可能となり次第、速やかに発表いたします。

当社グループの主要顧客業界である国内自動車産業は、東日本大震災の影響により、部品の供給体制などに甚大な被害を受けております。そのため完成車メーカーの生産が著しく停滞しており、今後の復旧についても未だ数多くの不確定要素が残っています。

従いまして、国内自動車産業の停滞が当社グループに与える影響を、現時点で合理的に算定することは困難な状況にあります。そのため、次期の業績見通しについては未定とさせていただきます。しかしながら現状は、前期にリーマンショックの影響で自動車マーケットが大幅に縮小した状況とは異なり、新興国を中心に自動車マーケット自体には旺盛な需要が見込まれます。当社グループは、継続して情報収集に鋭意努め、把握した内容を慎重に精査し、業績に関する予想が可能となった時点で、速やかに発表することをお約束いたします。

当社グループは、次期においては、復興のための貢献策を最優先の課題と捉え、関係各位に対して可能な限りの支援、協力を行っていく予定です。こうした震災からの復興に向けた支援策に努める一方で、中長期的な課題を視野に入れた活動にも取り組む必要があると考えています。これを受けて2012年3月期からは、3年後のあるべき姿を確実に実現するための中期経営計画をスタートさせる予定です(詳細については8~9ページ

をご覧ください)。当計画に基づき、アジア地域での事業拡大や新事業開発を目的とした技術開発の推進など、次の成長へとつながる活動に積極的に取り組んでいきます。

Q 配当について教えてください。

A 好業績を受けて、当初予定に3円加えて年間9円の配当とさせていただきます。

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策と位置付け、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を基本方針としています。

この基本方針に基づき、当期においては、業績の回復が下半期以降顕著となり、業績予想値を上回ったことを勘案した結果、期末配当を当初予定から3円増やし、1株当たり6円とさせていただきますことを決定しました。これにより年間配当金は、1株当たり9円となります。

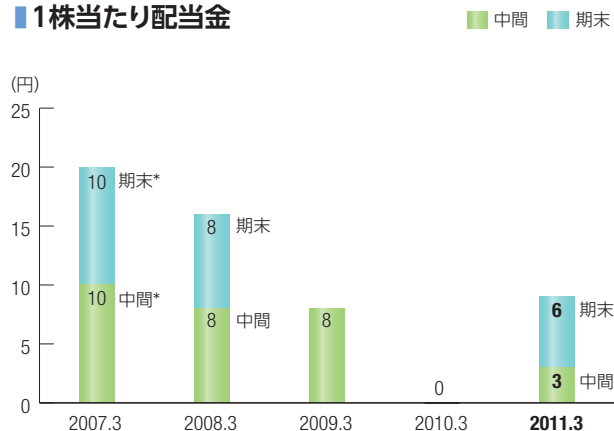
次期の配当につきましては、現時点では業績を予想することが困難な状況であることから未定とさせていただきます。ただし、業績予想と同じく、次期の配当についても、発表が可能となった時点で速やかに発表します。

当社グループが置かれている環境は、震災の影響により、不透明な状況にあることは否めません。しかしながら、前期までの厳しい状況の中で取り組んできた体質強化策は着実に成果を出しており、また次を見据えた企画開発なども順調に進んでおります。2012年3月期からスタートする中期経営計



画を着実に実行することで、一段上のステージを目指す所存です。株主の皆さまには、当社グループの現況をご理解賜りますとともに、今後の発展にご期待いただきますようお願い申し上げます。

■ 1株当たり配当金



* 普通配当金7.5円+記念配当金2.5円。

さらなる成長を目指して、中期経営計画を推進

新たに策定した中期経営計画の柱である「海外展開の強化」、「新市場の開拓」、「顧客満足度向上」の3つの施策を着実に実行し、さらなる成長を目指します。

■計画策定の背景

当社は、2012年3月期(2011年4月1日～2012年3月31日。以下、次期)より中期経営計画を実行に移します。その目的は、次期以降に予測される、次の2つの事業環境の変化に適切に対応し、確実な成長を目指すことにあります。

一つめは、当社グループの主要顧客業界である国内自動車産業が、新興国市場に向けて海外展開を強化していることです。今回の震災の影響によって、生産拠点や部品調達先の海外展開がいつそう加速される見通しで、当社もこうした動きに対応する必要があります。

二つめは、EV(電気自動車)やHV(ハイブリッドカー)など環境対策車の開発・生産と拡販が進んでいることです。当社も、この動きに対応した部品供給体制を強化する必要があります。

こうした状況を踏まえて、当社は、次期以降の3年間で次の3つの戦略を展開してまいります。

2011年3月期

売上高
103億円
売上高営業利益率
6.8%
海外売上高比率
24.6%



2014年3月期

売上高営業利益率
10%の達成
海外売上高比率
30%以上
3年以内
に新事業の創出

戦略① 海外展開の強化

新興国市場の成長に伴い、当社の全事業の主要顧客は、いずれも今後アジア地域を中心とした海外展開を加速することが予測されます。これを受けて次の施策に取り組んでまいります。



ネットシェイプ事業

主要顧客との情報共有を密にし、顧客の海外展開に即応できる営業体制を整備、国内外の連携を強化します。あわせて金型や精密鍛造品の海外生産拠点増設に向けた検討を本格化します。



アッセンブリ事業

タイのNICHIDAI(THAILAND)LTD.(以下、NDT)における現地調達を進めます。生産力を向上させ、量産拠点としての体制強化を図ります。



フィルタ事業

タイのTHAI SINTERED MESH CO., LTD.(以下、TSM)における石油掘削用フィルター以外のフィルター生産を拡充します。今後はTSMを、量産製品の生産拠点ならびにアジア地域での市場開拓拠点と位置付け、その体制強化に取り組みます。

2014

戦略②

技術開発の推進による 新市場の開拓

新市場開拓は、当社にとっての永遠のテーマです。当社は「他社の追随を許さない高い技術力に裏付けられた製品」を提供することで、新市場の創出を目指します。



ネットシェイプ事業

精密鍛造分野のさらなる強化を目的として技術・開発本部を新設しました。自動車部品軽量化のための技術開発や次世代電気自動車の中核部品の開発を進め、同時に精密鍛造部品の多様な産業分野に向けた提案に取り組みます。



アッセンブリ事業

NDTを生産拠点、国内子会社ニチダイプレジジョン株式会社を開発拠点として明確に分類し、2015年にも導入が予定されている、ヨーロッパのディーゼル自動車向け次世代規制「ユーロ6」に備えた技術開発を進めます。



フィルタ事業

オゾン分解フィルターなどの新製品開発に加えて、焼結技術の応用範囲を広げて、フィルター製品以外の新用途・新市場の開発に努めます。



戦略③

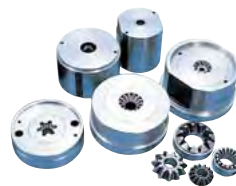
顧客満足度向上による 競争力の強化

顧客満足度の向上は、当社グループの経営基本方針です。中期経営計画においては、品質、納期、コストの3つの改善ポイントを設定し、各ポイントでの満足度を高めることで競争力強化を図ります。



ネットシェイプ事業

営業、設計、生産から販売、納入までの一連のプロセスを総合的に見直すことにより、品質向上、納期短縮、コスト削減を目指します。中でも納期短縮については、具体的な数値目標を設定し、その目標達成に取り組みます。



アッセンブリ事業

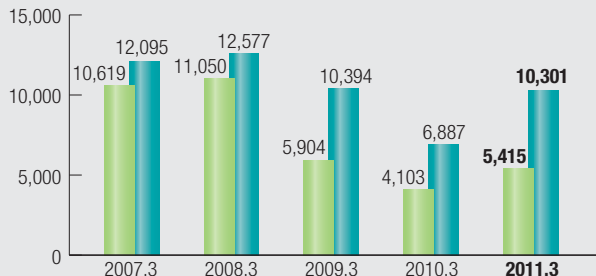
サプライチェーンの徹底的な見直しにより、大幅なリードタイム短縮を図り、顧客ニーズに即応します。



■ 単独 ■ 連結

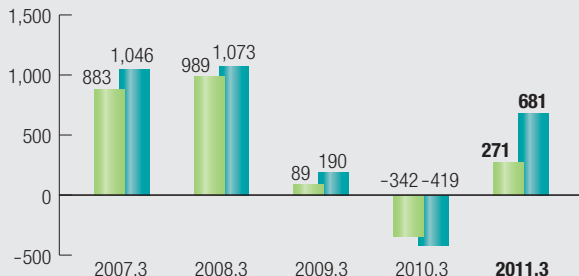
売上高

(百万円)



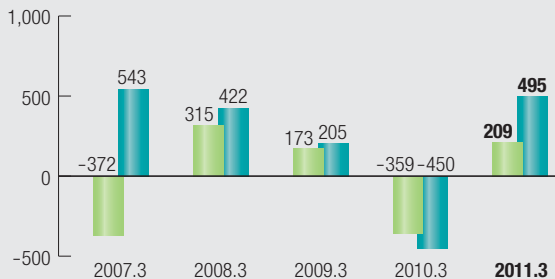
経常利益

(百万円)



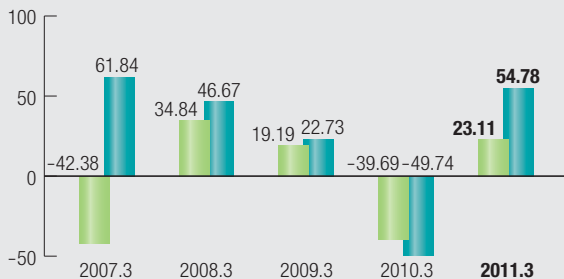
当期純利益

(百万円)



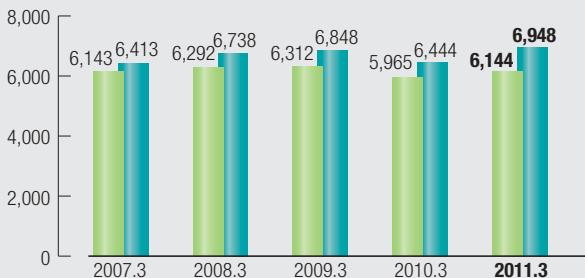
1株当たり当期純利益

(円)



純資産

(百万円)



ROE(自己資本利益率)

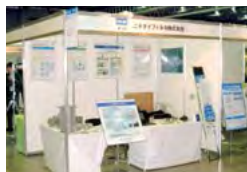
(%)



オゾン分解フィルターを開発・発売

展示会で新製品「オゾン分解フィルター」を紹介

当社の連結子会社であるニチダイフィルタは、2011年2月17日に幕張メッセにて開催された異業種交流展示会「第8回 Business Link 商売繁盛 at MAKUHARI MESSE (三菱UFJフィナンシャル・グループ主催)」で新製品「オゾン分解フィルター」を紹介いたしました。



オゾン分解フィルター展示ブース

特許出願中のオゾン分解フィルターは、既存のフィルターに比べて、体積を約十分の一レベルまでコンパクトにしながら、分解能力や耐久性を高めました。用途によっては洗浄することで再使用も可能です。



オゾン分解フィルター

特長1 優れた分解能力

既存製品以上の分解能力で、高コストパフォーマンスを実現しました。

特長2 小型化

既存製品の約十分の一の体積を実現。省スペース化に貢献します。

特長3 耐湿性

既存製品と比べ結露や冠水に強く、乾燥させれば再使用が可能です。

特長4 耐久性

独自技術を活用し、既存製品以上の耐久性を実現しました。

特長5 幅広い用途

上下水道の除菌、脱臭、半導体工場のオゾン水洗浄など、多種多様な産業分野での利用が期待されます。

IRセミナーに参加

個人投資家向けIRセミナーで当社の魅力をアピール

当社は2010年11月20日、京都で開催された「東京IPO IRセミナー2010」(東京IPO主催)に参加しました。セミナーでは当社社長の古屋元伸が、150名を超える投資家の皆さまに、約40分間にわたって企業概要や当社を取り巻く市場環境、その事業・技術の強みと主力製品、業績推移と今後の見込みなどについて説明いたしました。



「東京IPO IRセミナー2010」にて



当日の様子は、当社ホームページから動画でご覧いただけます。また、ホームページには当日の説明資料も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



<http://www.nichidai.jp/ir/movie.html>



当社は今後も、各種IRセミナーなどに参加し、当社をより深く理解いただけるよう努めてまいります。

主要連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部 科目	前連結会計年度末	当連結会計年度末
	2010年 3月31日現在	2011年 3月31日現在
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	1,413	1,697
1 受取手形及び売掛金	2,401	3,105
たな卸資産	1,167	1,563
その他	160	181
貸倒引当金	△ 3	△ 4
流動資産計	5,139	6,543
固定資産		
2 有形固定資産	5,170	4,931
無形固定資産	61	99
投資その他の資産	833	796
固定資産計	6,064	5,826
繰延資産計	1	—
資産合計	11,205	12,370

*百万円未満は切り捨て

Check Point

- 受取手形及び売掛金、たな卸資産の増加:売上高増加に伴い、増加しました。
- 有形固定資産の減少:設備投資抑制の影響により、減少しました。
- 買掛金の増加:売上高が増加した影響により、増加しました。
- 流動負債その他の増加:未払金、未払消費税等が増加しました。

(単位:百万円)

負債及び純資産の部 科目	前連結会計年度末	当連結会計年度末
	2010年 3月31日現在	2011年 3月31日現在
(負債の部)		
流動負債		
3 買掛金	607	881
短期借入金	1,687	2,216
未払法人税等	40	60
賞与引当金	115	132
4 その他	321	502
流動負債計	2,771	3,793
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	891	550
退職給付引当金	21	33
その他	76	45
固定負債計	1,988	1,628
負債合計	4,760	5,422
(純資産の部)		
資本金	1,429	1,429
資本剰余金	1,192	1,192
利益剰余金	3,627	4,096
為替換算調整勘定	△ 81	△ 106
その他	10	7
少数株主持分	264	328
純資産合計	6,444	6,948
負債純資産合計	11,205	12,370

*百万円未満は切り捨て

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	6,887	10,301
1,2 売上原価	5,963	8,120
売上総利益	923	2,181
2 販売費及び一般管理費	1,336	1,478
営業利益(△は損失)	△ 412	703
営業外収益	66	52
営業外費用	73	74
経常利益(△は損失)	△ 419	681
特別利益	—	0
特別損失	4	64
税金等調整前当期純利益(△は損失)	△ 423	616
法人税、住民税及び事業税	36	62
法人税等調整額	△ 1	△ 3
少数株主損益調整前当期純利益	—	557
少数株主利益(△は損失)	△ 8	61
当期純利益(△は損失)	△ 450	495

*百万円未満は切り捨て

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計期間	当連結会計期間
	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
3 営業活動によるキャッシュ・フロー	270	514
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 321	△ 358
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 230	129
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	△ 2
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△ 259	283
現金及び現金同等物の期首残高	1,320	1,060
現金及び現金同等物の期末残高	1,060	1,344

*百万円未満は切り捨て

Check Point

- 1 アッセンブリ事業の売上高増加により、材料費比率が上昇しています。
- 2 前年度コスト抑制緊急対策を行っていた影響により、今年度の人件費は増加しています。
- 3 営業活動によるキャッシュ・フローの増加・前期損失計上から大幅な増益となった影響により、増加しました。

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	1,429	1,192	3,627	△ 1	6,249	11	△ 81	△ 69	264	6,444
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 27		△ 27					△ 27
当期純利益			495		495					495
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 3	△ 25	△ 28	63	34
連結会計年度中の変動額合計	—	—	468	△ 0	468	△ 3	△ 25	△ 28	63	503
平成23年3月31日残高	1,429	1,192	4,096	△ 1	6,718	8	△ 106	△ 98	328	6,948

*百万円未満は切り捨て

■ 国内の主要な事業所 (2011年3月31日現在)

本社

京都府京田辺市薪北町田13

宇治田原工場

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

熊谷営業所

埼玉県熊谷市桜木町2-88

浜松営業所

浜松市中区高丘西1-10-20

名古屋営業所

名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル

京都営業所

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

岡山営業所

岡山市北区辰巳22-103 TCKビル



本社



宇治田原工場

■ 関連会社 (2011年3月31日現在)

① ニチダイフィルタ株式会社

京都府綴喜郡宇治田原町禪定寺塩谷14

② ニチダイプレシジョン株式会社

京都府京田辺市薪北町田13

③ NICHIDAI (THAILAND) LTD.

Amata Nakorn Industrial Estate Phase 8 700/882 Moo 5 TB.
Nhongkakra Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand

④ THAI SINTERED MESH CO., LTD.

Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo5, Tambol Pasak,
Amphur Muang Lamphun 51000 Thailand

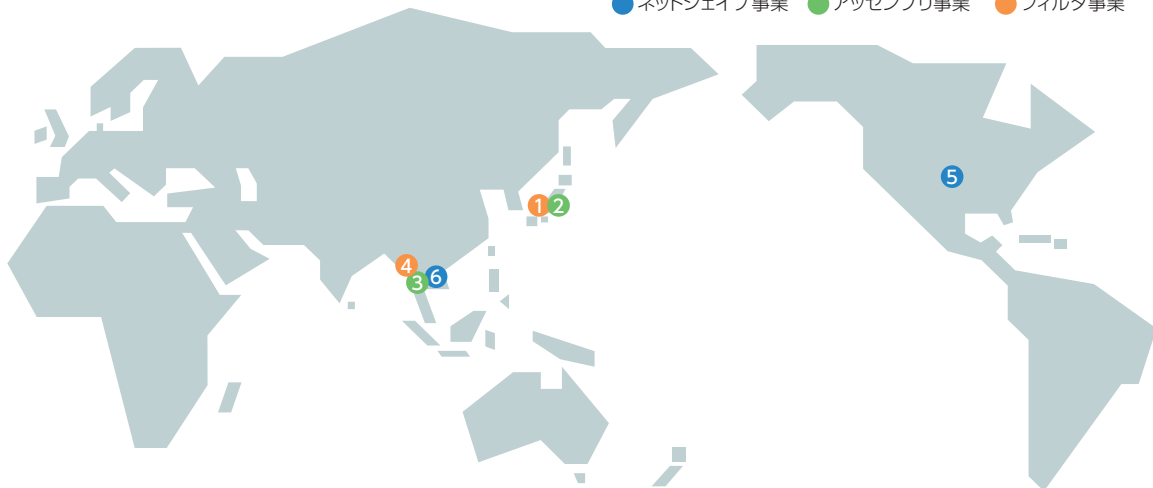
⑤ NICHIDAI U.S.A. CORPORATION

15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay, OH, 45840-9743, USA

⑥ NICHIDAI ASIA CO., LTD.

Amata Service Center Building Room 206/1 FL.2 700/2 Moo 1,
Tambon Klongtamru, Amphur Muang, Chonburi 20000 Thailand

● ネットシェイプ事業 ● アッセンブリ事業 ● フィルタ事業



① ニチダイフィルタ株式会社



② ニチダイプレシジョン株式会社



③ NICHIDAI (THAILAND) LTD.



④ THAI SINTERED MESH CO., LTD.

■ 会社概要 (2011年3月31日現在)

社名 (英文表記)	株式会社ニチダイ NICHIDAI CORPORATION
証券コード	6467
本社所在地	京都府京田辺市新北町田13
創業年月日	1959年5月5日
設立年月日	1967年5月1日
資本金	14億2,992万円
従業員数	447人

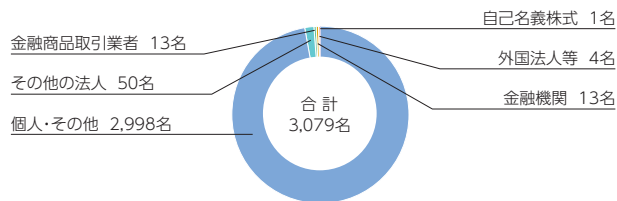
■ 役員 (2011年6月24日現在)

代表取締役社長	古屋 元伸	
取締役	瀬川 秀実	営業本部本部長 NICHIDAI ASIA CO., LTD. 社長 NICHIDAI U.S.A. CORPORATION 社長
取締役	島崎 定	部品部ゼネラルマネージャー ニチダイプレジジョン株式会社代表取締役社長 NICHIDAI (THAILAND) LTD. 社長
取締役	畑中 恵二	生産本部本部長、技術・開発本部本部長
取締役	辻 寛和	管理本部長、経営企画室長
監査役(常勤)	萩野 雅章	
監査役	刈谷 敏彦	
監査役	溝上 哲也	

■ 株式の状況 (2011年3月31日現在)

発行可能株式総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,053,300株
単元株式数	100株
株主数	3,079名

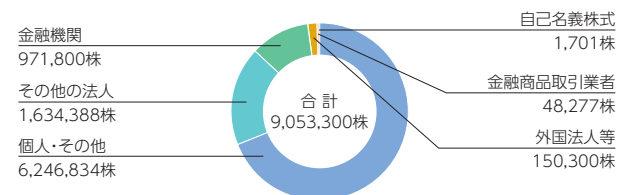
■ 所有者別分布 (2011年3月31日現在)



■ 大株主 (2011年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78%
田中克尚	497,688	5.49%
ニチダイ従業員持株会	480,144	5.30%
中棹知子	282,600	3.12%
古屋啓子	272,600	3.01%

■ 所有者別株式数分布 (2011年3月31日現在)



事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

基準日 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の 三菱UFJ信託銀行株式会社
口座管理機関

同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL.0120-094-777 (通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

公告方法 電子公告
当社ホームページ (<http://www.nichidai.jp/>)
にて掲載

単元株式数 100株

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

硬式野球部が地元少年野球チームのための指導会を開催

当社の硬式野球部は、2010年11月20日、地元の少年野球チームを招いて「第5回 少年野球指導会」をニチダイ球場で開催いたしました。

この指導会は毎年好評をいただいております。5回目を迎えた今回は6チーム116名の子供たちが集まりキャッチボールやポジション練習に汗を流しました。

ニチダイ硬式野球部は、今後も野球を通じた地域との交流、社会貢献活動に取り組んでまいります。



ホームページのご紹介

<http://www.nichidai.jp/>

ニチダイへの理解を深めていただくために、ホームページをご活用ください。



アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追及し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函いただけますようお願いいたします。

今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION
本社 TEL. (0774) 62-3481 (代)